

# 生ごみ堆肥化 普及活動20年

仙台市の市民団体「仙台生ごみリサイクルネットワーク」が設立20年を迎え、7日に青葉区の市市民活動サポートセンターで、記念交流会を開く。家庭ごみの約3割を占める生ごみの減量を目指し、堆肥化を推進する活動の先頭に立ってきた。交流会では20年の歩みを振り返り、生ごみの「メタン発酵」を普及させる最近の取り組みを報告する。

## 7日・交流会 取り組み報告

6月下旬、生ごみネットが定期的に開く「生ごみ減量・リサイクル講座」が泉区役所であった。「生ごみは一手間加えると資源に変わります」。会員たちはバケツ型の容器や段ボールを使い、約15人の受講者に堆肥化の方法を指南した。

## 仙台・リサイクルネットワーク



リサイクル講座で堆肥化する方法を教える生ごみネットの会員（右）

活動当初は、屋内用のバケツ型容器による堆肥化を推進し、受講者から「臭いが気になる」と不満が漏れた。市職員の協力も得て試行錯誤し、段ボールの中で

模索し、堆肥化を実践する家庭は20年間で増えた。だが、その割合は多くても全世帯の1%程度だろう。従来の活動では限界に来てい」と現状を分析する。

生ごみネットは、昨年からメタン発酵の勉強会を始めた。生ごみから液肥やメタンガスを生成する技術で、大型の発酵プラントが必要になるものの、集合住宅の多い市街地での再資源化に効果があるとされる。

山内文男会長(87)は「生ごみを減らし、仙台を世界一の環境都市にする。メタン発酵は有力な手段で、市民の理解が深まるように活動を続けたい」と語る。

交流会は午後1時から。参加無料。連絡先は徳田事務局長090(2999)8008。